

授業科目名	【G】 民事手続法(民事訴訟法) I 【EF】 民事訴訟法 I	区分 選択	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目					
授業形態	対面授業					
担当形態	単独	【G】 【EF】				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	民事訴訟法(前期)		担当者	吉田 直起		
授業概要	【概要】	本講義は、民事訴訟法の判決手続の基礎を習得することを目的とする。民事訴訟法制度がどのような構造を有し、またその構造がどのような理論によって支えられているかを正確に把握することがこの授業の目的である。本講義では、この民事訴訟手続の枠組を、主に判例・通説に沿って概観する。民事訴訟法 I では審判権の限界から証明責任までを扱う。				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> 民事訴訟の流れを適切に把握できる。 民事訴訟法上の基本的な制度および論点について、正確に説明することができる。 				
履修条件	特になし					
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)				
他科目との関連性	民法等の実体法科目の事前受講や、同時受講が理解を深めるために望ましい。					
教科書	井上治典編『ブリッジブック民事訴訟法 第三版』(信山社・2022年)					
参考書	高橋宏志＝高田裕成＝畑瑞穂『民事訴訟法判例百選[第五版]』(有斐閣・2015)					
評価方法	小テスト複数回(計80%)と授業への参加態度(20%)で評価する。					
フィードバック方法	小テスト毎に答え合わせと解説を行う					
評価基準	民事訴訟の流れや重要概念を適切に説明できる者にはSまたはA、理解できていると認められる者にはB、最低限の知識を習得している者にはC、最低限の知識の習得が認められない者をD、それ以下をEとする。授業参加回数が著しく少ないなど評価不能の場合はFとする。					
その他	<ol style="list-style-type: none"> 六法必携 授業の進行度合いによって、講義計画が変更することがある。 必ずノートをとること。 判例・通説を中心に説明するが、それでもかなりの情報量になる。授業終了後の十分な復習(最低でも120分程度)が重要になる。 授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。					

授業科目名	【G】	民事手続法（民事訴訟法）I	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【EF】	民事訴訟法 I	選択		【EF】3		【EF】2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス・民事紛争処理の種類						
	予習:	民事手続法とは何かを調べておく(120分)	復習:	民事裁判に関するニュースをいくつか渉猟する(120分)			
2	審判権の限界						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 1, 6)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
3	訴訟と非訟						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 1)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
4	裁判所						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 3, 8)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
5	訴えの提起						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 7, 8, 9)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
6	訴訟上の請求(訴訟物)と重複訴訟(二重起訴)						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 9)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
7	当事者—「当事者概念」「当事者の確定」「当事者能力」「訴訟能力」						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 6)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
8	当事者—「訴訟行為」、「訴訟上の代理」、「当事者適格」						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 6)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
9	訴訟要件・訴えの利益						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 7)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
10	当事者と裁判所の役割分担						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 10)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
11	口頭弁論の準備、当事者の欠席						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 11)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
12	証明						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 13,14)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
13	裁判上の自白						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 13,14)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
14	自由心証主義と証明責任						
	予習:	教科書の該当部分の通読(Approach 13,14)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
15	まとめ						
	予習:	教科書の通読(120分)	復習:	初回講義からのノートを通読し、民事訴訟法の基本原則を説明できるか確認する			

科目コード B421-2-X

0